

『読書感想文作成加速ツール』

中学受験情報局

かしこい塾の使い方

「読書感想文に時間を取られている余裕なんかない！」

受験勉強の山場を迎えている6年生にとっては特に、夏休みに読書感想文をじっくり書く時間的、精神的余裕はなかなかありません。

このツールは、しっかりと読書感想文を書くにあたって必要な要素を、「お母さんやお父さん」が、「お子さん」から引き出すことで、完成までの時間を大幅に圧縮できるというものです。

ポイントは3つです。

STEP 1 材料の拾い出し

上段の声かけ例からいくつか選んで、お子さんに問いかけてください。

そして、お子さんから返ってきた答えを下段にメモしていきます。

「本との出会い↓中身に触れる↓出会いを喜ぶ」

の順に問いかけ、メモをしていくことで感想文の材料がそろっていきます。

STEP 2 材料をふくらませる

STEP 1で得た材料の中から詳しくしたいものを選んで、ふくらませるための問いかけを行います。

ツールに従って問いかけていくことで、SS・1の発問応答の効果も実感いただけると思います。

STEP 3 響く流れに仕上げる

準備した材料を効果的な順番に並べていきます。

お子さん自身に取り組んでもらってもいいですし、お母さん、お父さんが並べ方も一緒に考えてあげても良いでしょう。

そして材料の順番が決まったら、このメモをもとに作文を書いていきます。

材料もそして順番も決まっていますから、お子さんだけでもストレスなく作文が仕上がっていくことでしょう。しかし、このツールの本当の価値は、日ごろなかなかみ取ることのできないお子さんの心の内に、お母さん、お父さんが触れられることにあります。

このツールを使って、今まで気づかなかったお子さんの姿を発見してみてください。

お子さんにとっても、お母さんお父さんにとっても、

良い夏休みになりますように！

かしこい塾の使い方主任相談員

SS・1代表小川大介

※このツールは、SSからメソッド提供を頂いています。

STEP 1 材料の拾い出し

本との出会い	材料（短くて良いので思いついたことをどんどん書き出します。）
○この本のことは何で知ったの？ ○題名を見てどんなこと思った？ ○題名や本の紹介を見て、自分とどんな関係があると思ったの？ ○読む前はどんな内容だと思っていたの？	

中身に触れる	材料（短くて良いので思いついたことをどんどん書き出します。）
◆本の紹介 ○どんな話だったの？ ○何について書かれていたの？ ○最初はどんな話で始まったの？ ○最後はどんな話だったの？ ○まとめて言うかどうかという話なの？ ○「誰が」「どうなる」「話なの？」 ○「何に」について筆者が「どう考えている」話なの？ ◆印象に残った場面・部分 ○おもしろかったのはどこ？ ○ぱっと頭に浮かぶのはどの場面？ ○もう少し詳しく教えて ○なぜ印象に残ったの？ （↓ここから「自分の体験」へつながる）	

中身に触れる	材料（短くて良いので思いついたことをどんどん書き出します。）
◆自分の体験 ○似たような体験をしたことある？ ○何か思いだしたことはない？ ○その話を教えて ○何があったの？ ○いつの話し？ ○どんなことを考えたの？ ○どんな気持ちになったの？ ○主人公はどんなことを感じたと思う？ ○その話をしている時の筆者はどんなことを考えているんだろうね？ ◆自分だったら？ ○同じような場面で、自分だったらどうすると思う？ ○自分だったらどんな気持ちになりそう？ ○どんなことを考えと思う？ ○自分は日頃、どんなことを考えているのかな？ ○自分が大切にしていることって何？ ○主人公と同じようなことを自分もすると思う？ ↓○それはどうして？ ○筆者の考えを自分ではどう思う？ ↓○それはどうして？ ○同じことに対して自分だったらどう考える？どうしたらいいと思う？ ◆読んでみて新しく考えるようになったことは？ ○読んでみて意外に思ったことは何？ ○新しく発見したことって何？ ○読んでみてどんな気分になった？ ↓○それはこの文章のどんなところに 対してかな？ ○これからどんなことを考えていこうと思った？ ○これからどんなことをしていこうと思った？ ○こういうことが大切だと思う？	

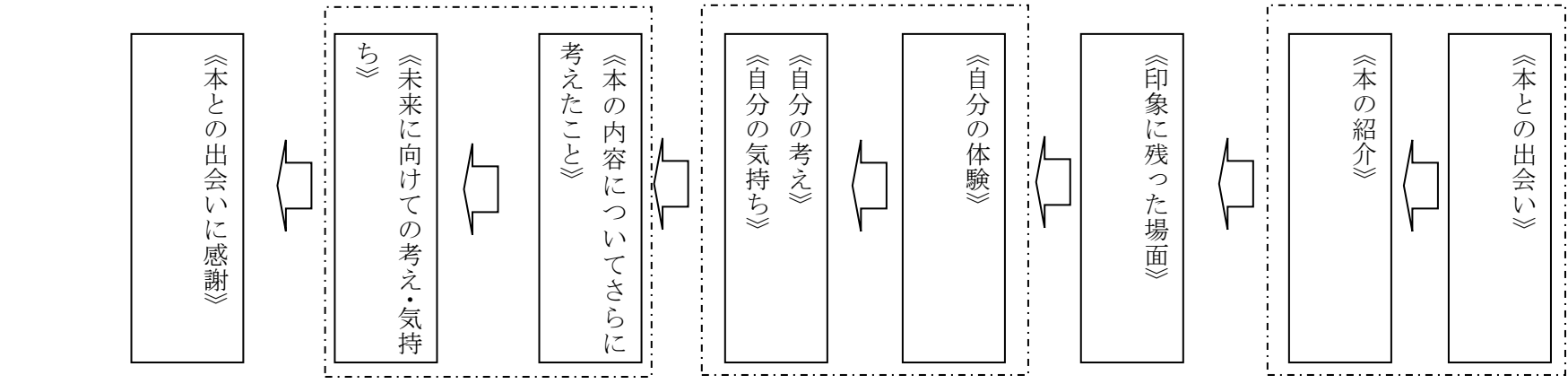
本との出会いを喜ぶ	材料(短くて良いので思いついたことをどんどん書き出します。)
○読んでみて良かったと思うのはどんなこと？ ○読んだおかげで何ができそう？ ○もし読んでなかったとしたら、どんなことを知らないまま(気づかないまま・考えないまま)だったかな？	

STEP 2 材料をふくらませる

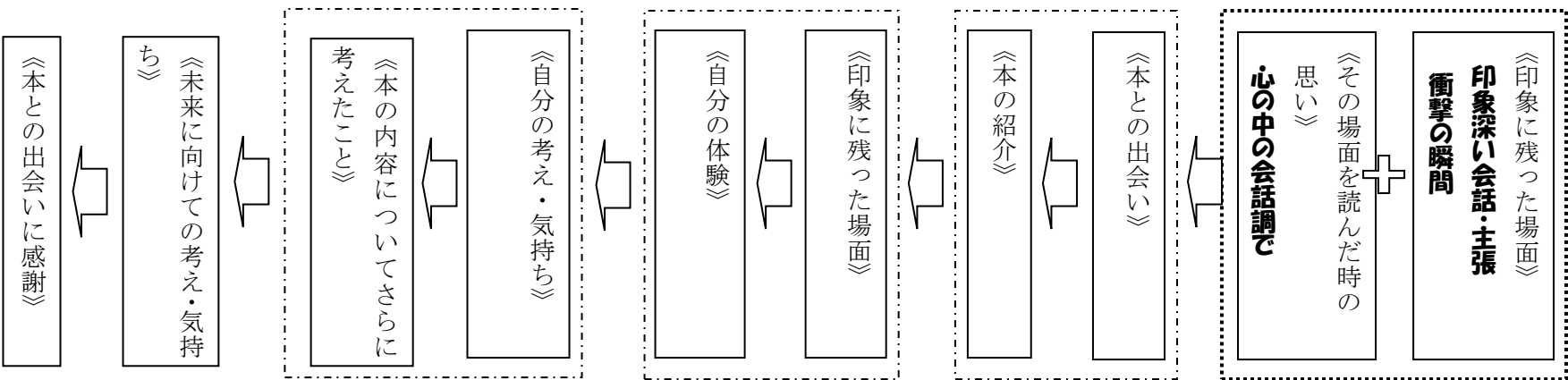
ふくらませる問いかけ	STEP 1で拾った材料をふくらませてみましょう
(when) (where) (who) (whom) (what) (how) (why) 6 W 1 Hの問いかけ いつの話？ 場所はどこ？ 誰がいたの？ 誰がしたの？ 誰にしたの？ 誰にとつてのことなの？ 何をしたの？ 何があったの？ どんな感じ？ どんな様子？ どんなやり方？ どうしてそう思ったの？ どうしてそんなことになったの？ (過去) (未来) 過去・未来の問いかけ その前には何があったの？ それまではどんな気持ちだったの？ 昔はどうだったと思う？ このままいくとどうなると思う？ これからはどうしようと思う？ どうなって欲しい？	

STEP 3 響く流れに仕上げる！

1. 基本の文章を作る



2. 「つかみ」を作る



(例)

サメはしつぽをつかまえて逆さにすれば、脳しんとうを起こすすぐにおとなしくなるのです。

「うっそお!？」思わず声が出そうになりました。

サメを素手で捕まえるなんて、しかも無防備なイカダに乗って。信じられないけれど、本当の話です。

僕に『コンチキ号漂流記』を勧めてくれたのは、大学生の従兄です。……

……

ノルウェーの人類学者ヘイエルダールは、ポリネシア人の起源がアメリカ・インディアンであること証明しようとして、思い切った行動に出ました。なんと彼は実際にポリネシア人の……その記録をまとめたのが……

……

なんといつてもサメを素手で捕まえる場面です。……

……

家族で旅行に出かけた時、グラスボートで海の底を見ていました。その時、60センチぐらいの魚(後で聞くと、「シイラ」という名前だそうです)が……

……

勇敢だと思いました。イカダに乗って夜の海を漂うなんて、想像しただけで震えてしまいました。……

……

学者の探究心というのは、恐怖心を越えるほどに強いものだと思います。……

……

自分も将来、全力で取り組める人生の目標を持つことができるだろうか。いや、持ちたい、と思いました。……

……

ヘイエルダールの挑戦が僕にも勇気を与えてくれた。……